

1. 教育の責任

本学では、看護基盤領域の基礎看護学に所属している。基礎看護学での教育対象学年は、1・2 年生である。看護を学び始めた学生が、看護学の専門的な知識や技術、態度に初めて触れる領域となる。「始めが大事」というように、看護学に対する興味や関心を喚起させるような教育をする責任を有していると考える。

さらに、4 年次の統合実習、看護研究Ⅱも担当しており、1 年次からの学びの成長のまとめをする責任も担っている。

2. 教育の理念

私の教育の理念は建学の精神である STUDY FOR LIFE に基づき豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、問題解決力を備えた人材を育成するため、「学生が基礎能力や体験を踏まえ、生涯成長し続けるのに必要な実践力を身につけられる」教育をすることである。

3. 教育の方法

教員としての目標は、「観察力」「説明能力」「コミュニケーション力」「実践力」を一連の過程をサイクルとして身に付ける人材を育成することである。

知識や技術の伝達方法は、基礎看護学を通して、看護に必要な「観察力」「説明能力」「コミュニケーション力」は担当科目である。【基礎看護技術Ⅱ】の 1 年次生において授業形式の方法の中で、日常生活の援助を通して、観察する視点や着目すべき観察点について、画像などを使用し具体的に説明し理解を深められるようにしている。

学生との接し方については、学生が事前学習し、教室で知識を深められるよう、ジグソー学習法を活用し、講義の中で学生が主役となるグループワークを育成している。演習でもジグソー学習法を展開し、事前学習を実習室で学んだ学生が教師役となって、演習のデモンストレーションを行うアクティブラーニングを取り入れている。【基礎看護技術Ⅲ】ではシミュレーションを取り入れ肺炎の患者さんに対して何を、どこを、いつ「観察」したらよいのかをペーパー・シミュレーション(事例展開)の情報収集、アセスメントへとつなげ、問題解決能力を養う。1 年次に学んだ演習でのジグソー学習法で「説明能力」を身に付け、症状、病態のアセスメントとつなげながら、看護実践できる基礎的知識を学ぶ。【基礎看護学実習Ⅰ】では基礎的な知識を生かして、患者との効果的な「コミュニケーション」をできるようになり、対象理解が深まる実習指導を行う。【基礎看護学実習Ⅱ】では受け持ち患者の看護過程の展開のアセスメントと日常生活援助技術を個別性に合わせた方法で実践できるよう指導している。【基礎看護学実習Ⅲ】では、受け持ち患者の看護過程の展開を基盤に問題解決力が備わるよう、「観察力」「説明能力」「コミュニケーション力」「実践力」を一連の過程をサイクルで思考できるように指導している。【統合実習】、【卒業研究Ⅱ】では、高齢社会にかかわる保健・医療・看護の視点から統合実習で看護実践力を学び、時代の発展と現状を学校での知識、臨床の場面の広い視野で卒業研究を探索的に行う。

自らの専門分野における教員としての成長や発展とは、ジグソー学習法、反転授業のスキルを磨き、基礎看護学領域での技術内容の教材がわかりやすく、親しみやすくなる教材開発を目指している。

《教育実践》

・学習方法

ガイダンスで 15 回の科目の課題と進度について説明する。学生は授業までに事前学習をする。

学生の事前学習の内容がまとまったポートフォリオを作成するように伝える。

・講義スタイル

ジグソー学習法で授業はおおよそラウンドロビンやシンクシェアペアで学びの確認をする。

海外の研修生ともグループワークで日常生活の援助についてディスカッションする(図 1)。

・双方向的な学習

技術演習については、基礎看護技術Ⅱは「教師役」というその演習でリーダーとなる学生が事前学習を実習室で学び(図2)、演習当日は反転授業形式で演習展開する(図3)。

基礎看護技術Ⅲはシナリオに沿って事前学習をする演習中ではテーマに沿って学生間での気づきをリフレクションする。

日常生活援助技術で必要な技術のポイントは動画配信している。

・Web の利用

課題の配信、リフレクションペーパーの提出、学習ポートフォリオの学びの評価は Web 上で行っている(図4)。

4. 教育の成果

基礎看護技術Ⅲ(2年次)の演習の自己評価は Web 上で本大学独自の Cplats を基盤にしたルーブリック評価を行っている(表1)。紙媒体での学習ポートフォリオは 100%提出していた(図5)。

5. 改善への努力と今後の目標

講義の感想を必ず次の講義演習の初めに学生へのフィードバックを行う。授業評価アンケートの時間を授業中に必ず設け、結果を受け止め、ポイントが低い評価項目に対して、次回はどのような工夫をするのか具体策を立て、授業案の変更を柔軟に行う。実習では臨地との協働関係が構築できている実習においては継続した連携を強化する。今後は初めての実習場でも協働関係が築けるようになるスキル、協働関係を構築する。

【添付資料】



図1 チェンマイ大学の学生と
ディスカッション



図2 教師役の学生の
事前学習



図3 シナリオ患者にあった技術練習

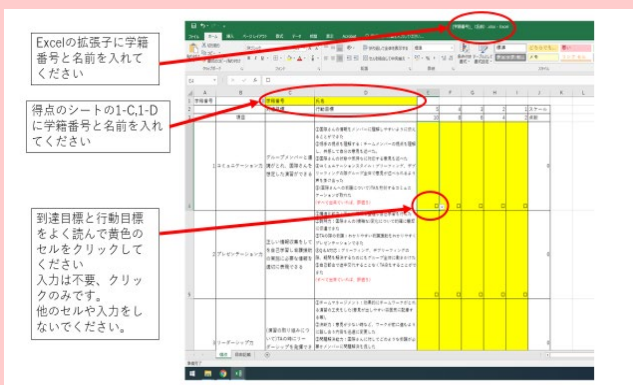


図4 web でのルーブリック評価の一例

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：関谷 まり 作成日：2025 年 1 月 29 日

表 1 ルーブリック評価の到達目標

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
c-plats	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	リーダーシップ力	行動力	創造力	計画力	論理的思考力	分析力	チームワーク	社会的責任
到達目標	グループメンバーと連携がとれ、国際さんを想定した演習ができる	正しい情報収集をしてを自己学習し看護援助の実施に必要な情報を適切に表現できる	(演習の取り組みについて)TAの時にリーダーシップを発揮できる	国際さんに必要な援助の技術練習を積極的に行う	シナリオシートや国際さんの変化する情報を理解してよりよい演習になるよう取り組むことができる	情報収集アセスメント、援助計画の一連のプロセスを実施できる	レポート内容や演習中に「本当にそうなのか、他に方法はないか」等、いろいろな方向から疑問を持って考えることができる	国際さんの状態をアセスメントができる	グループでのチームワークがとれる	看護専門職を意識した行動ができる



図 5 学習ポートフォリオ